令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　青葉　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

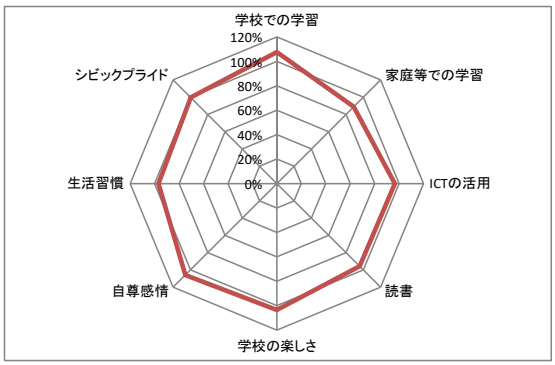
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2)　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	９割の問題で全国平均正答率を大きく上回っている。無回答率も低い。特に記述式の問題は、全国平均正答率を大きく上回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけたりする問題の正答率が高い。 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。	
	努力が必要な問題	必要なことを質問しながら聞いたり、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えたりすることに課題がある。	

算数	全体的な傾向や特徴など	変化と関係、データの活用については、全国平均正答率を上回っている。無回答率も低い。しかし、図形については、全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取り、見出した違いを言葉と数を用いて記述する問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	台形や正三角形の意味や性質について理解することに課題がある。	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」との問いに対して、約９５％の児童が肯定的に回答している。児童の実態にあわせた授業を今後も続けていく。
○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との問いに対して、約９７％の児童が肯定的に回答している。また「地域や社会をよくするために何かしたい。」の割合も高い。
日々の道徳教育の成果が出ている。
●「PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」の割合は低い。今後も学校の教育全体を通して積極的に活用をしていく必要がある。
●家庭学習時間が低いことから、学校からの課題だけでなく、今後も自主学習や読書活動などの推進を行っていく。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

○「学びの質を高める授業づくりの５つのポイント」を基に「問いと気付きを促す発問」「思考を深める話し合い活動や書く活動を取り入れ主体的な学びをより一層努める。
○学習活動に積極的にICT機器を取り入れ、自分の考えを広げたり、深めたりする力を高めていく。特に算数科では、図形の意味や性質が理解できるように、実物の操作などを取り入れ工夫を行っていく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習の習慣を身につけるために、学校からの課題だけでなく自主学習の推進を促す取組を実施する。また、自主学習などでデジタルドリルを積極的に使う意識をもたせる工夫なども行う。
○ICT活用を推進するとともに、情報リテラシーについても継続的に指導を行いながら、児童の資質・能力を高めていく。
○今後も家庭学習の充実や生活習慣の在り方などについて「学校だより」や「学級通信」等で保護者に協力を呼び掛けたり、学級活動などで取り上げて話し合わせたりすることで、児童自身が生活習慣を見直す契機を積極的につくっていく。